

三二七四番

せむすべの たづきを知らに 岩が根の こごし
 き道を 石床の 根延へる門を 朝には 出で
 居て嘆き 夕には 入り居て偲ひ 白たへの
 我が衣手を 折り返し ひとりし寝れば ぬば
 たまの 黒髪敷きて 人の寝る 甘睡は寝ずて
 大舟の ゆくらゆくらに 思ひつつ 我が寝る夜
 らを 数みもあへむかも

反歌

三二七五番

ひとり寝る 夜を数へむと 思へども 恋の繁き
 に 心どもなし